

平成26年度事業実施分 内部点検対象事業(個票)

新規/継続 継続

事業名	総合交通体系の確立	所管課名	住宅都市局	都市計画部	交通計画課
事業開始年度	平成24年度	基本計画	施策コード	主 4-5-1	再
根拠法令	なし	分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている		
行政計画上の位置づけ	なし	施策	公共交通を主軸とした総合交通体系の構築		
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に本格的な高齢社会の到来や環境問題の深刻化、不採算バス路線の廃止などの課題に対応するため、交通体系の主軸である公共交通ネットワークを強化し、マイカーに過度に頼らない社会を実現する必要がある。	施策成果指標	○1日あたりの鉄道・バス利用人員 (H22:108万4千人 → H34:120万人) ○公共交通が便利と感じる市民の割合 (H24:77.4% → H34:現状維持)		
		【事業概要】			

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 公共交通機関(鉄道・バス)	対象をどのような状態にしたいのか 異なる公共交通機関(地下鉄/西鉄電車/西鉄バス/JR等)が相互に連携し、利用者にとって使いやすい公共交通ネットワークとなり、多くの市民・来訪者に利用されている状態

26年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法 委託含む 補助金含む 負担金含む

「福岡市都市交通基本計画」を改定し、特に交通事業者等と連携した取り組みを推進する体制として「福岡市総合交通戦略協議会」を設置した。
また、関係者と連携した戦略的な取り組みを「福岡市総合交通戦略」として策定した。

事業費 (千円)	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	11,776	9,938	11,100
	歳入			
	特定財源	0	0	0
	一般財源	11,776	9,938	11,100

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標	
		25年度	26年度	27年度	最終年度
活動の指標	目標				年度
		実績			
		達成率			
	目標				年度
		実績			
		達成率			
成果の指標	1日あたりの鉄道・バス利用人員	目標			34年度
		実績	113.5万人	-	120万人
		達成率			
	公共交通が便利と感じる市民の割合	目標			34年度
		実績	77.4%	78.9%	現状維持(80%程度)
		達成率			

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)

利用者にとって使いやすい公共交通が主軸となった総合交通体系の構築に向けたロードマップを、交通事業者や道路管理者等の関係者との共働により策定する

②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)

①のロードマップに基づいて、関係者(交通事業者、市、道路管理者等)の連携により、PDCAサイクルで取り組みが進められる。

③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)

②のプランを実行し、色々な公共交通機関(地下鉄/西鉄電車/西鉄バス/JR等)が相互に連携した、利用者にとって使いやすい公共交通ネットワークが形成される。

④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)

マイカーに過度に依存しなくてもよい、公共交通を中心とした交通体系が構築された社会となっている。

行政のコントロール要素

大

小

外的な要因

大

活動の指標

成果の指標

施策成果指標

平成26年度事業実施分 内部点検対象事業(個票)

事業名	東部地域における鉄道計画調査	所管課名	住宅都市局	都市計画部	交通計画課
事業開始年度	平成17年度	基本	施策コード	主 4-5-1	再
根拠法令	なし	本	分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている	
行政計画上の位置づけ	なし	計	施策	公共交通を主軸とした総合交通体系の構築	
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ・都市交通審議会答申[昭和46年] ・都心部から箱崎方面に至る路線(現地下鉄2号線)を新設し、西鉄宮地岳線(現貝塚線)との直通運転について検討が必要	画	事業群	公共交通ネットワークの充実	
			施策成果指標	公共交通が便利と感じる市民の割合【施策4-5】 (H24:77.4% → H34:現状維持)	

【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 地下鉄2号線、西鉄貝塚線利用者及び沿線居住者等	対象をどのような状態にしたいのか 貝塚駅における乗継ぎを解消し、福岡市東部地域と都心部間の交通利便性の向上が図られる

26年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法 委託含む 補助金含む 負担金含む

・利用者実態調査として、貝塚線各駅の利用者に聞き取りを行い、交通行動等を把握するとともに、鉄道事業者と連携して、収支の精査や費用対効果を算出した。

事業費 (千円)	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	6,946	6,740	6,160
	歳入			
	特定財源	0	0	0
	一般財源	6,946	6,740	6,160

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標	
		25年度	26年度	27年度	最終年度
活動の指標	目標				年度
		実績			
		達成率			
	目標				年度
		実績			
		達成率			
成果の指標	公共交通の利便さへの評価	目標			34年度
		実績	77.4%	78.9%	現状維持(80%程度)
		達成率			
	目標				年度
		実績			
		達成率			

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)

実現可能性が見込まれる運営スキームの構築にむけて、鉄道事業者と協議・調整を行う。

②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)

・地下鉄2号線と西鉄貝塚線が直通運転化され、利用者の乗継ぎが解消される。

③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)

福岡市東部地域と都心部間の交通利便性が向上し、鉄道ネットワークの形成により、東部広域拠点(香椎・千早)、アイランドシティ、都心部の連携が強化される。

④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)

・沿線の新しいまちづくりや商業業務機能集積により福岡型のコンパクトな都市が形成される。
・交通混雑の緩和や環境負荷の低減など環境に優しい都市が構築される。

行政のコントロール要素

大

小

外的な要因

大

平成26年度事業実施分 内部点検対象事業(個票)

新規/継続 継続

事業名	都心部等における交通マネジメント施策の推進
事業開始年度	不明
根拠法令	なし
行政計画上の位置づけ	福岡市都市交通基本計画に位置づけ
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 都心部、特に天神地区の交通混雑悪化を契機として、交通需要の調整や交通容量の回復を図るため、「福岡市交通マネジメント施策推進協議会」において打ち出された交通施策の方向性に基づき、交通マネジメント施策を展開する必要がある。

所管課名	住宅都市局	都市計画部	公共交通推進課
基本計画	施策コード	主 4-5-2	再 8-1-2
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている		
施策	公共交通を主軸とした総合交通体系の構築		
事業群	交通マネジメントの推進(公共交通機関や自転車利用の促進等)		

【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか ①自動車利用者 ②公共交通利用者	対象をどのような状態にしたいのか ①特に都心部への移動に対して、「自動車の過度な利用」から「公共交通を含めた多様な交通手段を適度に利用する状態」へと転換した状態とする。 ②公共交通の利便性を強化することで、さらに公共交通を利用する状態とする。

26年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法 委託含む 補助金含む 負担金含む

- ・転入者に対する公共交通情報提供のモビリティマネジメント(MM)
- ・天神地区の交通課題解決に向けた、天神交通戦略に基づくWeLove天神協議会(WLT)との共働による短中期施策の検討及び実施
- ・大型商業施設駐車場を活用したパークアンドライド(P&R)の実施等
- ・交通事業者連携による外国人旅行者を対象とした公共交通共通乗車券(FTCP)の実施等
- ・博多駅筑紫口駅前広場再整備の方向性の共有(H26.12議会報告)及び交通解析検討

事業費 (千円)	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	9,117	8,052	8,307
	歳入			
	特定財源	12	0	0
	一般財源	9,105	8,052	8,307

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		25年度	26年度	27年度	最終年度	
活動の指標	転入者MM実施率 (転入世帯配布率) (%/年度毎)	目標	59,211	41,313	100%	年度
		実績	24,900	41,313		-
		達成率	42.1%	100.0%		-
活動の指標	P&R推進件数 (確認書締結) (件/年度毎)	目標	1	1	2件	年度
		実績	2	1		-
		達成率	200.0%	100.0%		-
成果の指標	1日あたりの鉄道・バス 乗車人員(万人)	目標	-	-	-	34年度
		実績	113.5	-		120
		達成率	-	-		-
成果の指標	都心部の駅における1日 当たりの乗降人員(万人) [H24実績]交通マス	目標	-	-	-	34年度
		実績	78.0	-		83
		達成率	-	-		-

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)

- モビリティマネジメント(MM)の実施
- 公共交通利用啓発活動の実施(WLTと連携)
- パークアンドライド(P&R)の推進
- 交通事業者連携施策の推進
- 交通結節機能の強化

②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)

- これまでの移動手段からの変容が生じる
(市民の公共交通利用が増加する、市民が自動車を賢く利用するようになる)
- 交通結節点における快適な空間の創出

③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)

- 公共交通分担率が上がる
- 自動車分担率が下がる
- 交通結節点における乗継抵抗が低減される

④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)

- 都心部の交通環境が快適となる
(渋滞緩和、交通円滑化、交通結節機能強化)
- 都心部が、人を中心として安全・快適に歩ける交通体系となる
- 公共交通が維持される

行政のコントロール要素

外的な要因

平成26年度事業実施分 内部点検対象事業(個票)

新規/継続 継続

事業名	都心部とウォーターフロントとの交通アクセス強化の検討
事業開始年度	平成23年度
根拠法令	なし
行政計画上の位置づけ	なし
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 市が主要事業の一つとしてMICE誘致の推進に取り組む中で、新たな観光地の検討が行われるなどウォーターフロントエリアの重要性が高まっており、都心部(天神・渡辺通、博多駅、ウォーターフロント)の拠点間の回遊性を高め、来訪者にもわかりやすい公共交通によるアクセス強化に取り組む必要があった。

所管課名	住宅都市局	都市計画部	公共交通推進課
基本計画	施策コード	主 4-5-1	再 5-4-1
	分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている	
	施策	公共交通を主軸とした総合交通体系の構築	
	事業群	公共交通ネットワークの充実	

【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 都心部とウォーターフロントとを回遊する市民や来訪者	対象をどのような状態にしたいのか 国際競争力を備えた九州・アジアをつなぐ交流拠点として本市の成長を牽引する天神・渡辺通地区、博多駅周辺地区と、アジアとの玄関口であるウォーターフロント地区間の回遊性を高め、来街者にもわかりやすい公共交通によるアクセス強化を図るもの。

26年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか	
実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 委託含む <input type="checkbox"/> 補助金含む <input type="checkbox"/> 負担金含む
・「都心循環BRT」形成に向けた意思決定 ・博多港国際ターミナルにおける外国人旅行者に対する公共交通案内の強化	

事業費 (千円)	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	4,388	8,511	10,000
	歳入			
	特定財源	0	0	0
	一般財源	4,388	8,511	10,000

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標	
		25年度	26年度	27年度	最終年度
活動の指標	公共交通(バス)分担率(ウォーターフロント行・学会)(%/毎年度【実績H23】)	目標			年度
		実績			
		達成率			
	交通アクセスのわかりやすさ(€/毎年度)	目標			年度
		実績			
		達成率			
成果の指標	公共交通(バス)分担率(ウォーターフロント行・学会)(%/毎年度【実績H23】)	目標	30	30	32年度
		実績	21		30
		達成率	70.0%		
	交通アクセスのわかりやすさ(€/毎年度)	目標	50	50	32年度
		実績			50
		達成率			50

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)

- 交通アクセス強化における段階的な整備スケジュール(プロセス)の確定
- バス停整備スキーム、乗継案内誘導、将来的な走行位置等の詳細整理
- 関係者と協議・調整
- 適宜情報発信(市民などへのわかりやすい情報提供)

②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)

- 交通アクセス強化の段階的なプロセスが示される
- 詳細内容について関係者と合意が図られ、関係者間の役割分担が明確となる
- 本事業の目的、プロセスを理解し、合意形成が図られている。

③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)

- 都心部とウォーターフロント相互の公共交通によるアクセスが市民や来訪者にとってわかりやすく利用しやすいものとなる。
- 都心部とウォーターフロント相互の案内誘導が充実し、市民や来訪者にとってわかりやすいものとなる。
- 本事業の目的、プロセスを市民が理解している。

④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)

- 市民や来訪者における都心部とウォーターフロント相互の公共交通によるアクセスとして定着する。
- 都心部とウォーターフロント相互の回遊性が向上する。
- 都心部における公共交通の利用者が増え、自動車利用者が減ることにより、渋滞緩和や交通円滑に伴う快適な移動環境が提供される。

行政のコントロール要素

大

小

外的な要因

大

平成26年度事業実施分 内部点検対象事業(個票)

新規/継続 継続
公共交通推進課

事業名	公共交通バリアフリー化促進
事業開始年度	平成14年度
根拠法令	高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律
行政計画上の位置づけ	福岡市バリアフリー基本計画
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に <small>「平成12年度の「交通バリアフリー法」の施行を受け、平成14年3月に「福岡市交通バリアフリー基本方針」の策定を行い、この中で特定旅客施設(1日あたりの利用者数5,000人以上)のうち、優先的に整備が必要な鉄道駅(主要交通結節点)やバス車両等の公共交通のバリアフリー化整備について方針を定めたもの。</small>

所管課名	住宅都市局 都市計画部
施策コード	主 1-1-1 再
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている
施策	ユニバーサルデザインの理念によるまちづくり
事業群	ユニバーサル都市・福岡の推進
施策成果指標	○バリアフリー化駅数(H28:27駅) (平均利用者3,000人以上/日) ○ノンステップバス導入台数(H28:50台)

【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 高齢者や障がいがある人をはじめ、すべての公共交通利用者(鉄道、バス)	対象をどのような状態にしたいのか 安全且つ円滑な公共交通の利用ができるよう、交通事業者が行う鉄道駅におけるエレベーター等の設置やノンステップバス導入の支援を行い、バリアフリー化の促進を図る。

26年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法 委託含む 補助金含む 負担金含む

交通事業者が行う公共交通施設のバリアフリー化整備に対して補助金を交付

①鉄道駅施設のバリアフリー化【1駅(JR下山門駅)】
JR和白駅、千早駅については次年度繰越

②ノンステップバス導入促進【導入補助台数:86台】

事業費 (千円)	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	98,546	100,491	79,156
	歳入			
	特定財源	0	0	0
	一般財源	98,546	100,491	79,156

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		25年度	26年度	27年度	最終年度	
活動の指標	鉄道駅のバリアフリー化(駅/年度毎)	目標	1	2	3	年度
		実績	0	1		
		達成率	0.0%	50.0%		
	ノンステップバスの導入促進(台/年度毎)	目標	4	96	95	年度
		実績	88	86		
		達成率	2200.0%	89.6%		
成果の指標	1日あたりの鉄道・バス乗車人員(万人/年度毎)	目標	-	-	-	34年度
		実績	113.5	-		
		達成率	-	-		
		目標	-	-	-	年度
		実績	-	-		
		達成率	-	-		

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)

- 鉄道駅のバリアフリー化を促進する。
- ノンステップバスの導入促進を図る。

②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)

- 安全且つ利用しやすい公共交通施設を実現

③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)

- 公共交通利用者の移動円滑化が図れる。
- 高齢者等の外出機会の増加に寄与
- 公共交通利用へ転換する。

④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)

- ユニバーサルデザインの理念に基づくまちづくりを達成
- 市民の暮らしの質が向上

行政のコントロール要素

小

大

外的な要因

小

大

平成26年度事業実施分 内部点検対象事業(個票)

新規/継続 継続

事業名	生活交通支援	所管課名	住宅都市局	都市計画部	公共交通推進課
事業開始年度	平成18年度	基本	施策コード	主 4-5-4	再
根拠法令	公共交通空白地等及び移動制約者に係る生活交通の確保に関する条例	分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている		
行政計画上の位置づけ	福岡市都市交通基本計画	計画	施策	公共交通を主軸とした総合交通体系の構築	
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 平成14年度の道路運送法の改正に伴い、バス路線の廃止が許可制から事前届出制となったことから、本市内を運行する路線バスにおいても、不採算路線の休廃止の届け出がなされ、公共交通が空白地となる地域において、生活交通(代替交通)の確保が必要となるため、財政負担による支援を行うもの。	成果	事業群	生活交通の確保	

【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 公共交通の利用について不便と感じる市民	対象をどのような状態にしたいのか 生活交通は、通勤、通学、通院、買い物その他の日常生活に欠かすことのできない、市民の諸活動の基盤であり、その移動手段について、制限なく支障を来さないよう必要最低限の生活交通の確保を行う。

26年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	<input type="checkbox"/> 委託含む	<input type="checkbox"/> 補助金含む	<input type="checkbox"/> 負担金含む
①代替交通機関の運行に対し、運行経費の収支差額について補助金を交付			
②公共交通が不便な地域において、生活交通の確保に向けた地域主体の取り組みに対し補助金を交付			
【バス路線休廃止対策 : 5路線(今宿姪浜線、板屋脇山線、志賀島島内線、脇山支線、金武橋本線)】			
【公共交通不便地対策 : 1地区(南区柏原地区)】			

事業費 (千円)	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	47,735	53,236	62,562
	歳入			
	特定財源	791	990	376
	一般財源	46,944	52,246	62,186

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		25年度	26年度	27年度	最終年度	
活動の指標	出前講座の開催回数(回/年度毎)	目標	1	1	1	年度
		実績	0	0		
		達成率	0.0%	0.0%		
	連絡協議会の開催回数(回/年度毎) 【5路線(1回/路線)】	目標	5	5	5	年度
		実績	9	7		
		達成率	180.0%	140.0%		
成果の指標	休廃止補助路線のバス利用者数(千人/年度毎)	目標	177	177	177	年度
		実績	169	158		
		達成率	95.5%	89.3%		
	地域における取り組みに対する支援(地区/年度毎)	目標	2	2	2	年度
		実績	1	1		
		達成率	50.0%	50.0%		

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)

- 公共交通が空白地となる地域における代替交通の確保・支援
- 地域主体による生活交通確保の取り組みに対する支援

②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)

- 公共交通が空白地となりうる地域における必要最低限の生活交通の確保ができる。
- 地域実情に応じた公共交通サービスの確保ができる。

③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)

- 広域的な移動手段が確保できる。
- 高齢者等の外出機会の増加に寄与
- 公共交通利用者の維持

④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)

- 公共交通サービスの維持
- 地域コミュニティの醸成

行政のコントロール要素

大

小

外的な要因

大

平成26年度事業実施分 内部点検対象事業(個票)

新規/継続 継続

事業名	高齢者への居住支援	所管課名	住宅都市局	住宅部	住宅計画課
事業開始年度	サ高住H24, 高優賃H13, 入居支援H15	基本計画	施策コード	主3-3-2 再1-1-1	
根拠法令	高齢者の居住の安定確保に関する法律他	分野別目標	安全・安心で良好な生活環境が確保されている		
行政計画上の位置づけ	福岡市高齢者居住安定確保計画	施策	良質な住宅・住環境の形成		
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 高齢者世帯の急増を背景として、バリアフリー化された良質な高齢者向け住宅の不足や民間賃貸住宅における高齢者世帯の入居制限等により、高齢者の安定した居住が確保できない状況となりつつあったため。	事業群	安心して住み続けられる住宅供給の促進		
		施策成果指標	○高齢者の居住する住宅のうち一定のバリアフリー化が行われた割合(H28:50%)		

【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 単身・夫婦のみ高齢者世帯	対象をどのような状態にしたいのか 必要に応じバリアフリー化や生活支援サービスが付加された住宅に安全に安心して居住できるようにする。

26年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法 委託含む 補助金含む 負担金含む

- ・サービス付き高齢者向け住宅の登録を申請する事業者と随時、相談を受け、協議を行い、国の補助制度等の周知を図るとともに、登録を推進した。(平成26年度登録数:4件118戸)
- ・サービス付き高齢者向け住宅について、市のホームページで登録制度および登録住宅の情報提供を行うとともに、入居を希望する高齢者に対し、随時、窓口や郵送により資料を提供した。
- ・高齢者向け優良賃貸住宅の入居者に対し家賃助成を行った。
- ・高齢者の民間賃貸住宅等への円滑な入居を支援するため、住宅物件情報や生活支援サービス等の情報提供を行う事業者に対し事業費補助を行った。
- ・保健福祉局と連携し、緊急連絡先や保証人が確保できない高齢者の民間賃貸住宅への入居を支援する「福岡市高齢者住まい・生活支援モデル事業」を開始した。

事業費 (千円)	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	29,094	31,992	33,577
	歳入			
	特定財源	14,365	15,381	16,152
	一般財源	14,729	16,611	17,425

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		25年度	26年度	27年度	最終年度	
活動の指標	サービス付き高齢者向け住宅の年間供給戸数	目標	580戸	580戸	580戸	29年度
		実績	887戸	713戸		毎年
		達成率	152.9%	122.9%	580戸	
		目標				年度
成果の指標	サービス付き高齢者向け住宅の年度未入居率	目標	95%	95%	95%	年度
		実績	56.0%	63.0%		
		達成率	58.9%	66.3%		
		目標				年度
	実績					
	達成率					

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標	①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)	行政のコントロール要素
	②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)	小
	③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)	小
	④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)	大
成果の指標	施策成果指標	外的な要因

①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)
・サービス付き高齢者向け住宅の登録制度及び登録を条件とした国の補助制度について周知を図るとともに、市民へ登録住宅の情報提供を行う。
・高齢者向け優良賃貸住宅の入居者に家賃助成を行う。
・高齢者へ住宅物件や生活支援サービスの情報提供を行う事業者へ事業費補助を行う。

②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)
・サービス付き高齢者向け住宅の登録申請及び高齢者の入居が促進される。
・高齢者が民間賃貸住宅等へスムーズに入居できる。

③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)
・必要に応じバリアフリー化や生活支援サービスが付加された住宅に安心して居住できる。

④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)
・高齢者の居住の安定確保が図られ、孤立死が無くなる。

平成26年度事業実施分 内部点検対象事業(個票)

新規/継続 継続

事業名	香椎・臨海東地区住宅市街地総合整備事業	所管課名	住宅都市局	住宅部	住環境整備室
事業開始年度	平成15年度	基本計画	施策コード	主 8-2-1 再 3-3-1	
根拠法令	なし	分野別目標	施策	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている	
行政計画上の位置づけ	なし	事業群	施策	高度な都市機能が集積した活力創造拠点づくり	
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に アイランドシティを含む香椎・臨海東地区において、良好な住宅市街地形成を促進するため。	施策成果指標	施策コード「3-3-1」の指標 住んでいる住宅及び住環境に対する満足度 現状値: 75.2% (2008年) 2013年: 現状維持 (80%程度を維持) 2022年: 現状維持 (80%程度を維持)		

【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか アイランドシティのまちづくりエリア(E工区: 約55ha)	対象をどのような状態にしたいのか 民間事業者の住宅等の整備に対する助成を行うことにより、優良な住宅供給を促進し、快適な居住環境の創出を図る。

26年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法 委託含む 補助金含む 負担金含む

【住宅等の整備に伴う助成(補助金交付)】

- ・センター地区画地D賃貸棟(128戸): 建設工事補助金交付
- ・照葉3丁目地区画地II-1b(分譲285戸): 建設工事補助金交付
- ・照葉3丁目地区画地II-2(分譲148戸): 建設工事補助金交付

事業費 (千円)	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	958,527	1,019,631	1,035,820
	歳入			
	特定財源	589,878	509,295	517,267
	一般財源	368,649	510,336	518,553

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		25年度	26年度	27年度	最終年度	
活動の指標	優良な集合住宅の供給戸数(累計)	目標	1,913	1,996	2,429	30年度
		実績	1,868	1,996		3,150
		達成率	97.6%	100.0%		
成果の指標	目標	目標				年度
		実績				
		達成率				
	目標	目標				年度
		実績				
		達成率				

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)

- ・民間事業者が行う集合住宅整備に係る費用の一部に対して補助金交付

②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)

- ・優良な集合住宅供給の促進

③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)

- ・快適な居住環境の創出

④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)

- ・住環境に対する満足度の向上

行政のコントロール要素

小

大

外的な要因

小

大

平成26年度事業実施分 内部点検対象事業(個票)

事業名	七隈線沿線のまちづくり推進	所管課名	住宅都市局 都市づくり推進部	地域計画課
事業開始年度	平成25年度	基本	施策コード 主 4-4-1 再	
根拠法令	土地区画整理法・都市再開発法	分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている	
行政計画上の位置づけ	なし	計画	施策	まちと自然が調和した福岡型のコンパクトな都市づくり
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 地下鉄3号線(七隈線)の整備を契機として、良好な市街地形成や新たな拠点の形成を図るため、支援・誘導を行っている。	事業群	計画的な市街地整備の推進	

【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 七隈線沿線の地域住民等	対象をどのような状態にしたいのか 地域住民等が主体となって駅周辺地域の特性を活かしたまちづくりが行われている。

26年度事業実施内容(手段) 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法 委託含む 補助金含む 負担金含む

- (仮称)橋本駅前地区土地区画整理準備組合への支援
 - ・準備組合委員会開催への支援(出席)
 - ・地権者全体説明会・個別説明会への支援
 - ・土地利用に関するアンケート調査実施の支援
 - ・現況測量実施への支援:土地区画整理法第72条(測量及び調査のための土地の立入り等)
- 橋本駅南地区準備組合設立に向けた活動への支援
 - ・地権者全体説明会・個別説明会への支援
 - ・準備組合設立に向けた活動支援
 - ・土地区画整理組合設立に向けた技術援助申請:土地区画整理法第75条(技術的援助の請求)

事業費 (千円)	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	284	247	318
	歳入			
	特定財源	0	0	0
	一般財源	284	247	318

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		25年度	26年度	27年度	最終年度	
活動の指標	七隈線沿線の土地区画整理事業実施件数	目標	1	0	0	年度
		実績	0	0		
		達成率	0.0%			
成果の指標	七隈線の乗車人員(1日当たり)	目標	73,874	74,860	75,900	年度
		実績	71,779	74,888		
		達成率	97.2%	100.0%		
		目標				
	実績					
	達成率					

ロジックモデル作成用のテーブル
最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)
地域住民が行う下記活動について、誘導支援を行う。
・地権者の意向を反映した土地利用案の作成。
・精度の高い事業計画案の作成。
・事業認可・実施に向けた関係行政機関との協議調整。

②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)
・区画整理事業への同意が得られ、事業認可及び組合設立の実現が図られる。

③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)
・交通結節機能の強化、駅周辺の整備により、地下鉄利用者の利便性が向上する。
・商業・業務施設の誘致により、生活利便性が向上し雇用創出の効果も図られる。
・土地の有効利用が可能となる。

④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)
・商業・業務機能等の集積や定住人口の増加による地下鉄七隈線の乗車人員増が見込める。
・定住人口の増加による税収(固定資産税、都市計画税等)が見込める。
・鉄道駅を中心としたコンパクトで良好な市街地が形成される。

行政のコントロール要素

大

小

小

外的な要因

大

活動の指標

成果の指標

施策成果指標

平成26年度事業実施分 内部点検対象事業(個票)

新規/継続 継続

事業名	都心部の機能強化(都市再生の推進・地下街連絡協議会経費)
事業開始年度	平成20年度
根拠法令	なし
行政計画上の位置づけ	なし
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 福岡市においても商業的に昼人口や滞在の減少が懸念される中、これまで以上に都市の機能強化と魅力づくりを 図ることが必要。そのためには都市の成長を牽引する都心部において、計画的な機能更新によりあらゆる人の活動 を支えるための都市機能に磨きをかける必要がある。

所管課名	住宅都市局	都市づくり推進部	都心再生課
施策コード	主 8-1-1	再 7-4-1	
分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている		
施策	都市の活力を牽引する都心部の機能強化		
事業群	都心部の機能強化と魅力づくり		
施策成果指標	都心部の従業者数(H28:39万人) 都心部の1日あたりの歩行者交通量(H28:11.0万人)		

【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 都心部において働く人、住 む人、訪れる人など、あら ゆる人	対象をどのような状態にしたいのか 都心部のまちづくりを通じて、人と経済活動を呼 び込み、様々な投資やサービスの提供がなさ れ、そこに様々な雇用が生まれることで、生活 の質が更に高まっていく。

26年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 委託含む	<input type="checkbox"/> 補助金含む	<input type="checkbox"/> 負担金含む	
事業費(千円)	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	23,804	23,804	48,472
	歳入			
	特定財源	1,208	8	10,758
	一般財源	22,596	23,796	37,714

○ H25.3に都心部機能更新誘導方策を活用し、「博多駅中央街地区地区計画」を変更し、区域内において2件のビル計画(「KITTE博多」、「JRJP博多ビル」)がそれぞれH26.2、H26.5に着手しており、平成28年春開業予定。
○ 天神明治通り地区において、まちづくりの具体化に向けて検討を進めており、平成27年度秋に「天神明治通り地区地区計画」変更の都市計画決定予定。

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		25年度	26年度	27年度	最終年度	
活動の指標	制度PRのためのパンフレット配布や出前講座開催の件数	目標	10	8	8	年度
		実績	7	5		
		達成率	70.0%	62.5%		
活動の指標	エリアマネジメント組織等と当該とのまちづくり検討に係る協議回数	目標	40	50	50	年度
		実績	71	77		
		達成率	177.5%	154.0%		
成果の指標	都心部の従業者数(次回調査26年度予定)	目標	37.3万人	-	38.6	28年度
		実績	-	-		
	都心部の1日あたりの歩行者交通量(次回調査H28年度予定)	目標	10.7万人	-	-	年度
		実績	-	-		
		達成率				

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標	①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)	行政のコントロール要素
	機能更新誘導方策を始めとする様々なまちづくりの制度について周知する。(ホームページやリーフレット等の作成・配布など)	
	②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)	
	周知の対象である事業者において、更新期を迎えたビルの建替え検討がなされる一環として、まちづくり検討の場ができ、当課との協議の機会が増える。	
成果の指標	③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)	外的な要因
	老朽化したビルがグレードの高い業務・商業ビルへと更新されることで、新たな企業が進出する受け皿が整うとともに、九州・アジア、環境、安全安心、魅力、共働といった視点でのまちづくりが推進される。	
施策成果指標	④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)	
	企業の進出が促進されることで、商機拡大、雇用創出などにつながるのみならず、まちの賑わいや魅力が向上し、来街者が増加する。	

平成26年度事業実施分 内部点検対象事業(個票)

新規/継続 継続

事業名	快適で高質な都心回遊空間の創出事業	所管課名	住宅都市局	都市づくり推進部	都心再生課
事業開始年度	平成25年度	基本	施策コード	主 5-3-2	再 8-1-1
根拠法令	なし	分	分野別目標	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている	
行政計画上の位置づけ	なし	計	施策	情報アクセスや回遊性など、来街者にやさしいおもてなし環境づくり	
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 都市の活力を牽引する都心部においては、官民共働で機能強化と魅力づくりに取り組む必要がある。特に、「天神・渡辺通」、「博多駅周辺」、「ウォーターフロント」の3地区を核とした都市機能強化や、これらを繋ぐための回遊性向上が不可欠である。	画	事業群	交通利便性や都心回遊性の向上	
【事業概要】		施	策	策	
対象		成	果	指	
目的		標			

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 都心部において働く人、住む人、訪れる人など、あらゆる人	対象をどのような状態にしたいのか ・回遊性強化により、都心部の拠点どうしの相乗効果が発揮され、都心全体の集客力・活力が向上する。 ・歩いて楽しく、魅力ある回遊空間の形成により、働くひと、住む人、訪れる人の心に残る美しいまちとなる。

26年度事業実施内容(手段) 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか				
実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 委託含む	<input type="checkbox"/> 補助金含む	<input type="checkbox"/> 負担金含む	
〇都心回遊性の向上に関する取組みは、水辺や花・みどり、歴史・観光など多岐にわたる施策との整合、財産負担の平準化を図る事が必要であることから、庁内横断的な検討組織を設置し、事業間の調整・情報共有などを通じて事業の優先順位の整理や関係課と連携した事業計画の立案・予算化など、事業の全体最適化を推進 (事業の優先順位の整理や、関係課と連携した事業計画の立案・予算化)				
事業費 (千円)	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	5,775	1,944	179,000
	歳入			
	特定財源	0	0	154,500
	一般財源	5,775	1,944	24,500

【活動・成果指標の達成度】						
区分	指標の内容	実績		目標		最終年度
		25年度	26年度	27年度	27年度	
活動の指標	エリマネ組織等と当該とのまちづくり検討に係る協議回数	目標	40	50	50	28年度
		実績	71	71		50
		達成率	177.5%	142.0%		50
	エリマネ組織等による公開空地等でのイベント開催件数	目標	8	8	12	28年度
		実績	5	9		15
		達成率	62.5%	112.5%		15
成果の指標	都心部の1日あたりの歩行者交通量(天神地区、博多駅地区の調査地点のうち12地点の合計(平日7時~20時))	目標	10.7万人	10.7万人		年度
		実績	-	-		
		達成率				
		目標				年度
		実績				
		達成率				

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)
道路、河川、公園などの回遊空間のコンセプトやデザイン、回遊スポットとなるにぎわい創出空間について、関係局連携のもと検討・共有・整備を推進。

②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)
核となる3地区をつなぐ質の高い回遊空間が形成される。

③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)
3地区をつなぐことの相乗効果により、賑わいや活力が都心部全体に波及し、公開空地等を活用したイベントが多く開催される。

④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)
来街者の増加により、飲食、買い物、宿泊など様々な経済波及効果もたらされ、市全体の活力が向上。

行政のコントロール要素

小

大

外的な要因

小

大

平成26年度事業実施分 内部点検対象事業(個票)

新規/継続 継続

事業名	九州大学学術研究都市構想の推進	所管課名	住宅都市局	大学移転対策部	学研都市推進課
事業開始年度	平成13年度	基本計画	施策コード	主 8-2-2	再 7-6-1
根拠法令	なし	分野別目標	施策	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている	
行政計画上の位置づけ	九州大学学術研究都市構想(H13) ※産学官連携で策定	事業群	事業群	高度な都市機能が集積した活力創造拠点づくり	
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 九州大学の福岡市西区の元岡・薬原地区及び糸島市への移転を契機とし、九州大学を核とした新しい学術研究都市の形成を図るもの	施策成果指標	アイランドシティ・九州大学学術研究都市・シーサイドもち(SRP地区)の従業者数(H21:13,127人→H28:21,200人) ※うち九大学研都市分(H21:6,132人→H28:6,800人)		

【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 九州大学伊都キャンパス周辺	対象をどのような状態にしたいのか 九州大学伊都キャンパスを核とした学術研究都市の形成を図る

26年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
 実施手法 委託含む 補助金含む 負担金含む
 九州大学学術研究都市推進機構(以下、OPACK)への補助

- <OPACKの事業>
- ・学術研究に関する広報活動事業
 - ・産学官の共同研究による研究開発及びその支援に関する事業
 - ・研究機関等の立地支援事業
 - ・産学連携交流支援事業

事業費(千円)	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	17,006	17,414	17,248
	歳入			
	特定財源	9	0	0
	一般財源	16,997	17,414	17,248

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		25年度	26年度	27年度	最終年度	
活動の指標	学研都市への視察件数	目標	25	25	20	年度
		実績	22	22		
		達成率	88.0%	88.0%		
成果の指標	九大伊都キャンパス周辺における従業者数	目標				年度
		実績	H21:6132人			
		達成率				
		目標				年度
		実績				
		達成率				

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)
 OPACKへの補助金交付および九州大学学術研究都市構想の推進に関する連携

②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)
 OPACKによる事業推進
 ・学術研究に関する広報活動
 ・産学官の共同研究による研究開発及びその支援
 ・研究機関等の立地支援
 ・産学連携交流支援

③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)
 研究機関や商業施設の集積などまちづくりの進展により、雇用が創出される

④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)
 大学の知的資源を生かした研究開発機能の集積を促進し、九州大学学術研究都市を形成する(従業者数の増加)

行政のコントロール要素

小

大

外的な要因

小

大

平成26年度事業実施分 内部点検対象事業(個票)

新規/継続 継続

事業名	移転に伴う西部地域のまちづくり、九州大学移転調整経費
事業開始年度	平成5年度
根拠法令	なし
行政計画上の位置づけ	九州大学学術研究都市構想(H13)※産学官連携で策定
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 九州大学の福岡市西区の元岡・桑原地区及び糸島市への移転を契機とし、九州大学を核とした新しい学術研究都市の形成を図るもの

所管課名	住宅都市局	大学移転対策部	学研都市推進課
基本計画	施策コード	主 8-2-2	再 7-6-1
分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている		
施策	高度な都市機能が集積した活力創造拠点づくり		
事業群	九州大学学術研究都市構想の推進		
施策成果指標	アイランドシティ・九州大学学術研究都市・シーサイドももち(SRP地区)の従業者数(H21:13,127人→H28:21,200人) ※うち九大学研都市分(H21:6,132人→H28:6,800人)		

【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 九州大学伊都キャンパス周辺	対象をどのような状態にしたいのか 九州大学伊都キャンパスを核とした学術研究都市の形成を図る

26年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法 委託含む 補助金含む 負担金含む

①大学直近(元岡・桑原周辺)の地元主体のまちづくり支援・調整
②九大学研都市駅から伊都キャンパスまでの交通アクセス検討等
③九大伊都キャンパス周辺インフラ整備(学園通り線、福岡・志摩線等)に係る調整

事業費(千円)	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	7,939	4,779	12,079
	歳入			
	特定財源	14	11	1,808
	一般財源	7,925	4,768	10,271

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		25年度	26年度	27年度	最終年度	
活動の指標	元岡土地区画整理地内のまちづくり進捗率(地区内における学生住宅などの立地)	目標	30%	35%	53%	年度
		実績	29.5%	46.2%		
		達成率	98.3%	132.0%		
		目標				年度
		実績				
		達成率				
成果の指標	元岡土地区画整理地内の人口	目標	600	750	975	年度
		実績	600	800		
		達成率	100.0%	106.7%		
		目標				年度
		実績				
		達成率				

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)

- ・九大学研都市駅から伊都キャンパスまでの交通アクセス検討
- ・九大伊都キャンパス周辺のインフラ整備支援

②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)

- ・九大学研都市駅から伊都キャンパスまでの交通アクセス強化
- ・九大伊都キャンパス周辺のインフラ整備促進

③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)

- ・移転に伴う西部地域のまちづくりが進む(元岡土地区画整理地内の人口増加)

④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)

- ・大学の知的資源を生かした研究開発機能の集積を促進し、九州大学学術研究都市を形成する(従業者数の増加)

行政のコントロール要素

外的な要因

平成26年度事業実施分 内部点検対象事業(個票)

新規/継続 継続
九大跡地計画課

事業名	九州大学跡地のまちづくり(六本松)
事業開始年度	平成3年度
根拠法令	なし
行政計画上の位置づけ	地域拠点
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 九州大学の移転に伴う跡地を活用した、地域拠点にふさわしい多様な都市機能を図る。

所管課名	住宅都市局	大学移転対策部	
基本計画	施策コード	主 4-4-1	再
	分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている	
	施策	まちと自然が調和した福岡型のコンパクトな都市づくり	
	事業群	計画的な市街地整備の推進	
施策成果指標			

【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 九大六本松キャンパス跡地	対象をどのような状態にしたいのか 緑とゆとりを持った快適な都市空間の形成を図るとともに、地域拠点にふさわしい都市機能の誘導を図り、風格とにぎわいを兼ね備えたまちづくりを行う。

26年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法 委託含む 補助金含む 負担金含む

平成26年 6月: 青少年科学館賃借入居に関する補正予算案(債務負担行為)可決
平成26年 7月: 道路・公園等の基盤整備完了(UR)、土地譲渡(UR→JR)
平成26年11月: 「青陵の街・六本松デザインガイドライン」策定(青陵の街・六本松地区協議会)
平成27年 2月: 土地交換(UR・裁判所)
平成27年 3月: 土地譲渡(UR→県弁護士会) 裁判所、JR九州西街区工事着工

※以下事業費は、箱崎+六本松

事業費(千円)	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	46,460	14,943	28,223
	歳入			
	特定財源	34,500	1,296	0
	一般財源	11,960	13,647	28,223

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標	
		25年度	26年度	27年度	最終年度
活動の指標	道路・基盤工事完了面積(ha)	目標	0	6.5	26年度
		実績	0	6.5	
		達成率		100.0%	
成果の指標	土地利用の転換が図られた面積(ha)	目標	-	0.7	30年度
		実績	-	0.7	
		達成率		100%	
		目標			6.5ha
		実績			
		達成率			

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)

- ・地区協議会によるデザインガイドラインの運用や維持管理の仕組みづくり
- ・周辺の交通対策、跡地内の建築工事の円滑な実施、調整。
- ・青少年科学館一体整備に向けた関係者との協議・調整。

②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)

- ・緑とゆとりを持った快適な都市空間の形成
- ・司法機関を核とした個性的なまちの形成
- ・安全な周辺交通環境の実現
- ・青少年科学館や複合施設を中心とした賑わいの創出

③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)

賑わいの創出、良好な交通環境の形成により、地域拠点にふさわしい都市機能を備えた空間が創出され、まちの円滑な機能更新が進む。

④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)

地下鉄延伸と合わせて、六本松地区の拠点性が高まり、周辺地区との回遊・連携が強化されることで、市がさらに厚みを持った、魅力ある都市となり、市民の満足度も向上する。

行政のコントロール要素

大

小

外的な要因

大

平成26年度事業実施分 内部点検対象事業(個票)

新規/継続 継続

事業名	九州大学跡地のまちづくり(箱崎)	所管課名	住宅都市局	大学移転対策部	九大跡地計画課
事業開始年度	平成3年度	基本	策	再	
根拠法令	なし	分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている		
行政計画上の位置づけ	地域拠点、機能を充実・転換する地区(第9次福岡市基本計画)	施策	まちと自然が調和した福岡型のコンパクトな都市づくり		
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 九州大学の移転に伴う箱崎キャンパス周辺の地域活力低下を最小限とするともに、九大統合移転事業を円滑に進めるため、計画的かつ速やかな土地利用転換を図り、良好な市街地の形成と新たな都市機能の導入を推進する。	事業群	計画的な市街地整備の推進		
【事業概要】		施策成果指標			

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 九州大学箱崎キャンパス跡地	対象をどのような状態にしたいのか 周辺地域と調和・連携した、良好な市街地の形成および新たな都市機能の導入を図る。

26年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法 委託含む 補助金含む 負担金含む

- 九州大学と連携して跡地利用計画を策定した。
 - ①九州大学と福岡市による跡地利用の検討(両者による検討会議を月2回程度開催)
 - ②地元代表や学識者等から成る「跡地利用協議会」の開催(計2回)
- 民間提案募集を実施し、需要とアイデアの確認を行った。
 - ①民間提案募集の実施
 - ②提案を行った事業者との対話の実施
- 都市基盤(道路)について関係者との協議を進めた。
 - ①道路の線形等について交通管理者と協議・調整
 - ②地元関係者への説明会の開催

※以下事業費は、箱崎十六本松

事業費(千円)	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	46,460	14,943	28,223
	歳入			
	特定財源	34,500	1,296	0
	一般財源	11,960	13,647	28,223

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		25年度	26年度	27年度	最終年度	
活動の指標	各種調査において進出意向を示した事業者の延べ数(公共・民間)	目標	30	75	100(社・団体)	年度
		実績	70	86		
		達成率	233.3%	114.7%		
成果の指標	土地利用の転換が図られた面積	目標	0	0	0ha	年度
		実績	0	0		
		達成率				
		目標				年度
		実績				
		達成率				

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)

- 跡地利用計画の実現に向けて、地域住民や学識経験者等の関係者と必要な事項を協議する。
- 事業者のニーズを把握するため、土地利用の以降を示している事業者との意見交換を行う。

②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)

- 地域住民や事業者等のニーズにあったまちづくりのルールや、まちの骨格となる都市基盤(道路、公園)の計画が取りまとめられる。
- 事業者の選定手法が決定し、年度内に公募が開始される。

③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)

- 跡地利用計画に基づき、段階的な土地利用の転換、都市基盤の整備・改善が行われる。
- 持続性を持ったまちづくりの体制の確立される。

④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)

- 新たな都市機能も導入され、良好な市街地の形成が実現する。
- 周辺地域と一体となったまちの運営により、周辺地域を含めた、市民のまちづくりへの理解や満足度が向上する。

行政のコントロール要素

小

大

外的な要因

小

大

平成26年度事業実施分 内部点検対象事業(個票)

新規/継続 継続
計画課

事業名	香椎駅周辺土地地区画整理事業
事業開始年度	平成11年度
根拠法令	土地地区画整理法
行政計画上の位置づけ	第9次福岡市基本計画
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 天神・博多地区を中心とした都心部に依存する一極構造からの脱却を目指し、市東部の広範な生活圏域の中心となる広域拠点として整備し、多核連携型都市構造への転換を進めている。

所管課名	住宅都市局	香椎振興整備事務所
基本計画	施策コード	主 4-4-1 再
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている	
施策	まちと自然が調和した福岡型のコンパクトな都市づくり	
事業群	計画的な市街地整備の推進	
施策成果指標		

【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 香椎駅周辺地区	対象をどのような状態にしたいのか 東部広域拠点に位置付いている香椎駅周辺地区は、隣接する千早地区との「あれい構造」の生活文化核として、交通拠点性の強化、既存商店街の再生及び居住環境の向上を目指す。

26年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 委託含む	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金含む	<input type="checkbox"/> 負担金含む	
①仮換地指定(直営)				
②建物等移転(直営、一部委託)				
③道路築造工事				
④中心市街地活性化対策(補助金)				
事業費(千円)	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	3,306,004	4,712,375	3,696,641
	歳入 特定財源	2,326,514	3,790,662	2,883,927
	歳入 一般財源	979,490	921,713	812,714

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		25年度	26年度	27年度	最終年度	
活動の指標	移転棟数(棟)	目標	284	308	371	28年度
		実績	259	310		385
		実績/最終	67.3%	80.5%		
活動の指標	幹線道路整備延長(m)	目標	1,096	1,389	1403	29年度
		実績	1,010	1,303		1,673
		実績/最終	60.4%	77.9%		
成果の指標	まちの賑わい率(使用収益開始率)	目標	38.2%	61.4%	67%	30年度
		実績	39.1%	48.3%		100%
		実績/最終	39.1%	48.3%		
成果の指標		目標				年度
		実績				
成果の指標		実績/最終				

ロジックモデル作成用のテーブル
最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標	①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)	行政のコントロール要素
	②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)	小
	③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)	小
	④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)	外的な要因
成果の指標		大
施策成果指標		大

①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)
・事業の取組みや進捗状況などの情報を地元へ提供する。(まちづくりニュース発行など)
・組織全体として情報共有を行い、連携して課題解決を図る。

②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)
・計画的な建物移転が行える。
・計画的な施設整備が行える。

③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)
・計画的な市街地整備が出来る。

④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)
・既存商店街の再生や居住環境の向上が図られ、安心安全なまちが形成される。

平成26年度事業実施分 内部点検対象事業(個票)

新規/継続 継続

事業名	セントラルパーク構想推進	所管課名	住宅都市局	みどりのまち推進部	みどり政策課
事業開始年度	平成25年度	施策コード	主5-2-1	再	
根拠法令	なし	分野別目標	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている		
行政計画上の位置づけ	福岡市 新・緑の基本計画	施策	緑と歴史・文化のにぎわい拠点づくり		
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に ・舞鶴城址将来構想策定から20年以上が経過し、社会情勢も変化 ・史跡の発掘調査及び史跡内施設の移転が進展 ・新・緑の基本計画の策定(緑の顔となるセントラルパークの整備) ・第9次基本計画の策定(観光・集客の拠点づくり) ・構想策定に共同で取り組むことへの県の合意	事業群	市民の憩いと集客の拠点づくり(大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用等)		
		施策成果指標	過去3年間に福岡城跡(舞鶴公園)に行ったことがある市民の割合(H28:55%)		

【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか ①県民・市民 ②国内外からの来街者	対象をどのような状態にしたいのか ①都心に近い“貴重な緑地空間である大濠公園”舞鶴公園が、一体となって日常的な憩いの場として利用されている状態 ②両公園が本市の貴重な観光資源として磨き上げられ、魅力的な観光地となっている状態

26年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 委託含む	<input type="checkbox"/> 補助金含む	<input type="checkbox"/> 負担金含む	
(26年度)	・セントラルパーク構想を6月議会に報告し策定した。 ・構想を将来的に担保するため、高等裁判所及び舞鶴中学校跡地を都市計画公園区域に追加した。(42.4ha→46.9ha、9月決定告示) ・高等裁判所の移転推進のため、防災公園街区整備事業に関する債務負担行為及びUR施行同意の議案を9月議会に提出し、議決された。また、事業化に向けた事業協定を3月にURと締結した。 ・回遊性向上を図るため、環境整備を行った。([天守台]既設鋼製階段改修、木製階段設置、[御高屋敷]園路改修、石碑周辺整備、外周フェンス撤去等) ・史跡の魅力向上を図るため、樹木整理による見所づくりを行った。(本丸・二ノ丸) ・福岡城さくらまつりを開催した。(11日間:約30万人来場) ・県と共同で提案競技を行い、基本計画策定業務委託を3月に契約した。			
事業費(千円)	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	16,863	39,581	112,662
	歳入	0	6,000	86,466
	一般財源	16,863	33,581	26,196

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		25年度	26年度	27年度	最終年度	
活動の指標	セントラルパーク構想の策定	目標	100%	100%	-	26年度
		実績	90%	100%		100%
		達成率	90.0%	100.0%		
活動の指標	セントラルパーク基本計画の策定	目標	-	-	50.0%	28年度
		実績	-	-		100%
		達成率	-	-		
成果の指標	過去3年間に福岡城跡(舞鶴公園)に行ったことがある市民の割合	目標	50.7%	52.2%	53.6%	34年度
		実績	55.6%	55.8%		60.0%
		達成率	109.7%	106.9%		
		目標				年度
		実績				
		達成率				

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)

- ・県市が連携して、セントラルパーク構想及び基本計画を策定する。
- ・非史跡施設の城外移転を推進する。(福岡高等裁判所、舞鶴中、城内住宅、運動施設等)
- ・構想に基づき、公園や史跡の整備を進める。
- ・県市で連携組織を設置し、管理運営の連携を図る。
- ・福岡城さくらまつりの事業拡大を図る。

②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)

- ・両公園の今後の整備方針が決定する。
- ・非史跡施設が城内からなくなっている。
- ・史跡の復元整備や一体的な公園整備が進展し、一体的な管理運営が行われている。
- ・大濠公園や周辺も含めたエリアで福岡城さくらまつりが実施されている。

③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)

- ・県民・市民の憩いの場として、魅力や利便性が向上し、公園利用者が増加する。
- ・九州・西日本の魅力的な観光スポットとして、国内のみならず、海外からの来街者も増加する。

④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)

- ・魅力的な空間の創出で、周辺居住者が増加するとともに、来街者の増加で経済活動が活発化する。
- ・海外からの来街者増加で、アジアの交流拠点都市として国際競争力が向上する。

行政のコントロール要素

大

小

小

外的な要因

大

平成26年度事業実施分 内部点検対象事業(個票)

新規/継続 継続

事業名	みどり活用推進事業
事業開始年度	平成25年度
根拠法令	
行政計画上の位置づけ	福岡市 新・緑の基本計画
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に これからの公園や街路樹などの整備・管理運営については、限られた財源の中で、社会状況の変化や市民の多様なニーズに的確に対応する必要がある。そこで、これまでの「創る・守る」視点だけでなく、「活かす・育てる」視点を加えみどり行政を進める。

所管課名	住宅都市局	みどりのまち推進部	みどり推進課
基本計画	施策コード	主 4-6-1	再 4-4-2
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている		
施策	ストックの活用による地区の価値や魅力の向上		
事業群	公共空間の利活用の推進		
施策成果指標	○身近な緑への満足度(H28:40%)		

【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか みどり資産	対象をどのような状態にしたいのか みどり経営基本方針の理念が浸透し、職員のみどり資産活用に対するマインドの向上や体制の整備、市民・地域・企業によるみどり整備・運営への参画の充実、みどり資産整備・運営経費の収支改善等が実施されている状態。

26年度事業実施内容(手段) 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法 委託含む 補助金含む 負担金含む

平成26年度に実施した内容

- ①みどり経営基本方針の策定検討⇒中間報告
- ②西南社の湖畔公園への民間活力導入による便施設設置(事業者決定, H27.4.1オープン)
- ③駐車場の有料化の一部実施(百道中央公園, 西部運動公園)
- ④水上公園の有効活用検討(H27.2月～公募開始)
- ⑤高宮南緑地への民間活力導入の検討(庁内ワーキンググループ発足, 保存活用計画策定委託発注)
- ⑥活気ある公園づくり事業: 事業者選定, ウェブサイト・冊子の更新

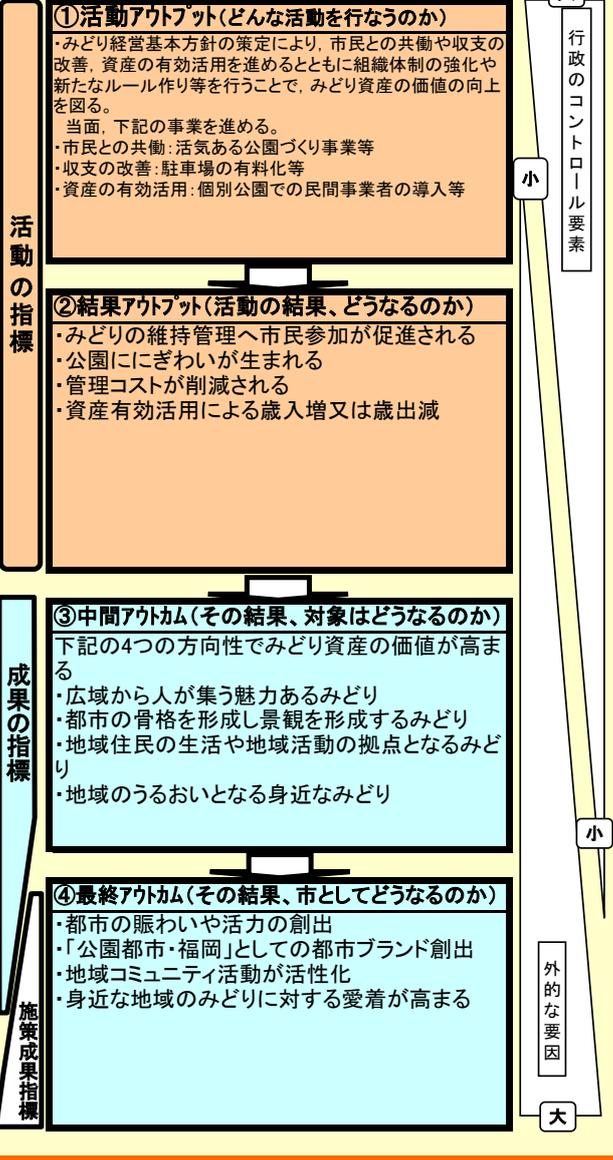
事業費(千円)	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	18,349	40,288	40,200
	歳入			
	特定財源	0	27,000	27,000
	一般財源	18,349	13,288	13,200

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		25年度	26年度	27年度	最終年度	
活動の指標	駐車場有料化実施公園数(箇所)	目標	8	8	10	年度
		実績	7	9	10	—
		達成率	87.5%	112.5%		
活動の指標	民間活力導入事例数(箇所)	目標	—	—	1	年度
		実績	—	—	1	—
		達成率				
成果の指標	身近な地域において緑が豊かであると感じている市民の割合【%】	目標	34.5	37.5	40	32年度
		実績	33.3	31.3	40	55
		達成率	96.5%	83.5%		
		目標				年度
	実績					
	達成率					

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう



平成26年度事業実施分 内部点検対象事業(個票)

新規/継続 継続
動物園

事業名	動物園の整備・運営
事業開始年度	平成18年度
根拠法令	なし
行政計画上の位置づけ	なし
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 現在の動物園の代替えとして、新たに動物園を造ろうとした「福岡市自然動物公園構想」の中止を受け、老朽化した現在の動物園を存続していくために再生することになった。

所管課名	住宅都市局	みどりのまち推進部
基本計画	施策コード	主 4-4-2 再 5-1-2
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている	
施策	まちと自然が調和した福岡型のコンパクトな都市づくり	
事業群	公園再整備の推進	

【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか ○菜園者 ○動物 ○管理者(施設)	対象をどのような状態にしたいのか ○入園者数年間100万人、魅力ある動物展示の工夫(息づかい、スピーディな動き等)、利便性の向上(エレベーター等の導入、駐車場の拡大、アクセスの改善等) ○ストレスのない、生き生きとした動物展示の工夫 ○動植物園の一体化、収益向上

26年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 委託含む	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金含む	<input type="checkbox"/> 負担金含む
① 動物園センターゾーン道路整備 バスカット新設を行うことで正門既存ロータリーへの路線バス進入を回避(平成27年5月完了予定) ② 地下鉄薬院大通駅構内及び浄水通りに動植物園誘導サインの設置(平成27年3月完了) ③ 閑散期(夏・冬)の集客企画と戦略的な情報発信を実施			

事業費 (千円)	年度	25年度決算額	26年度決算見込額	27年度予算額
	歳出合計	824,446	509,490	490,842
	歳入			
	特定財源	582,842	291,727	275,545
	一般財源	241,604	217,763	215,297

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標	
		25年度	26年度	27年度	最終年度
活動の指標	工事の進捗率(%) 全体工事費ベース (約93億円)	目標	40.0%	40%	37年度
		実績	38.9%	38.9%	
		達成率	97.3%	97.3%	年度
		目標			
成果の指標	入園者数(人) 15,000人/年 増加	目標	820,000	900,000	37年度
		実績	954,855	990,916	
		達成率	116.4%	110.1%	年度
		目標			
実績					
達成率					

ロジックモデル作成用のテーブル
最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標	①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)	行政のコントロール要素
	②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)	
	③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)	
	④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)	
成果の指標		外的な要因

→ 市の観光政策推進に貢献